



414
A, 693



一月十日ヨヤパンヘラルド抄訳
 下ノ関償金ノ事
 十六日ヘラルド新聞中ニ下ノ関償金ト
 云ヘル標題ニテ載セタル一ヶ条アリ此条ノ總
 旨ハシヤキスベールノ詩ニ去フ所ノ高利貸
 ヤイロツクノ人ノ肉一ホントヲ書入レニシテ金
 ヲ貸セシニ類セル刻薄ノ論ナリ
 日本ニテハ無理ナカラ三百萬弗ノ金ヲ出サ、
 ルヲ得ス其故ハ足下ノ去フ所ノ者ノ如ク愚ナ
 ル哉
 長門侯カ下ノ関ニテ外ナリシヲ以テナ
 國船ヲ撃テシナリ



大正十一年四月
侯爵郵寄贈

4230



リ且此償金ハ其時ノ實ニ被リタル傷損ヲ償フ
カ為ラニハ非ラス日本人ヲシテ是下ノ去テ如
ク強國ヲ畏レシム可キカ為ノナリト是亦正直
セル演述ト習フ可シ然シナカラ又國際ノ禮儀
ナリト去テ辞ヲ以テ掩飾セル巧言ヲ表ハスニ
足レリ公正ハ必ス目ヲ掩フテ行フヲ要ス如何
ントナルニ然ラサレハ開化ノ者公正ノ名ヲ假
リテ如何ナル惡逆ヲ行フトモアル可ケレハ之
ヲ見テ自ラ赧然タラサルヲ得サルカ故ナリト
ハ聖當ノ言ナリ

是下ノ論ハ外國人ノ日本人ヲ遇スルニ概シテ
不正ノ事多キヲ聞見セサル人ニハ千八百六十
四年十月二十二日ノ下関條約ニ至リシ始末ヲ
載セサルヲ以テ性シム可ク見エルナリ此條約
ノ第一條ニ此事ヲ備載セリ

曰ク大不列顛佛蘭西合衆國尼達蘭ノ全權公使
等此度長門周防ノ大守毛利大膳ノ所為大昂
シテ外國ノ條約ヲ守ル能ハサラシムルノ甚シ
キニ至ルルヲ以テ此大名ノ鎧國攘夷ノ為ニ
取散ケル砲臺ヲ破壊セントテ下関ノ海峡ニ

此四國合供ノ軍勢ヲ差送ラサルヲ得セルニ及
ヘリ且大君政府ハ元來此賊主ヲ遣責スルノ負
任ヲ負者ナレハ此征伐ノ費用ハ勿論條約諸國
ノ利益ニ関スル然テノ損傷ヲ償フ可シト曰
日本政府ヨリ之ニ關係アル四ヶ國ニ三百萬弗
ノ金ヲ出ス可シト定マレリ

前文ノ事ハ左ノ事ノ為メニ為セルナリ即チ日
本政府諸外國ト條約ヲ告ヒタルヲ以テ全國中
ノ不平ヲ引起セシテ政府ハ之ニ拍ラス信實ニ
條約ヲ遵行セシテ是ヲ以テ政府ニ叛ケル賊党

、起リシテ政府ノ軍ト賊軍ト數戰争有リシテ
終ニ賊徒下関ノ海峡ニ於テ砲臺ヲ築キ叛逆ノ
所為トシテ政府ノ同盟諸國ノ數船ニ發砲セシ
テ此同盟國等軍艦數艘ヲ下関ノ海峡ニ送り砲
臺ヲ破壊セシテ而ル後此同盟國等日本政府ヲ
政府既ニ外國人ニ交易ヲ許シ又之ヲ防カント
スル所為有リシ故ニ此叛逆起レリ罰スル此征
伐及ニ傷損ノ費用ヲ償フ為メニ三百萬弗ノ償
金ヲ課スルヲ以テセルテ其案ノ費用傷損ハ二
十萬弗ヨリ寡カリシテ此所為ニ依テ外國人ノ

日本ノ親愛スル心最モ深切ニナリシト等ナリ
下関ノ條約ニ至リシ事實ハ如何ナルニモセヨ
此條約ニテ日本ハ三百万弗、金ヲ出サント約
セリ今唯一百五十萬弗ヲ拂ヘリ何故ニ日本ハ
其約定セシ償ヒヲ拂フヲ怠リタルヤト云ハ
バ云フ可シ

其答ヘニ蓋シ日本ハ外國人ノ吾咽喉ヲ扼セル
手ヲ擧ゲマンカ為メニ日猶姑息ノ意思ヲ懷ケル
カ如キ愚蒙ノ者ナリシト云フヲ得可シ又外國
人ハ日本ニ對シテ吾輩ハ汝ヲ不公正ニ處置シ

且 吾輩ハ汝ヨリ正当ナル者ノ餘ニ多クノ
金ヲ拂フ可キ約束ヲ命シタルヲ知レリ吾輩ノ
實ニ掛カリタル費用及ヒ被リタル傷損ヲ償フ
程ヲ返濟セラレシテ欲ス而シテ無理抑シニ課
シタル約定ヲ履ムノ責任ヲ許ス可シト云フヲ
得可シ勿論日本ヨリ預ミノ右ノ如キ處置ヲ望
ムハ甚タ奇怪ナルヲナレ氏日本人ノ開化國ニ
就テ許多ノ事ヲ聞知セシハ亦思ハサル得ヘカ
ラス蓋シ脩身接物ノ理ヲ知ルカ如キ即チ是
ナリ而ル故ニ吾輩モ亦彼カ了見違ヒヲ容ルヌ

ヲ怒フ可キナリ日本ハ羊仔ノ豺狼ヨリ仁怒
ヲ受クルカ如ク外國政府ヨリ仁怒ヲ受ク可キ
者ナルトハ足下モ吾モ同シク知ル所ナリ日本
政府既ニ此盜竊ノ償金ヲ拂フ可キ談判ヲ決定
セシ故ニ此道理ヲ明白ニ理會セシニ至リシテ必
足下ノ論ニ又去フ此償金ハ過日英國ニテ借リ
タル金ヲ以テ償ヘハ別ニ困難有ル可カラズ其
全數ニ百四十萬ポンド既ニ当地ニ送ラレタリ
且此金ハ專ラ高麗戰爭ノ為ニ借リシ者ト思ハ
ルニ今高麗ノ軍ニ不用ト為リタレハ殊ニ然ルヲ

得可シト云ヘリ蓋シ此借金ノ一主意ハ政府ヨ
リ出タス年分ノ俸祿ヲ買上テ消却スルニ用ル
ナリ而三週以前ニ政府ヨリ布告有リテ此年分
ノ掛リヲ消却スルノ舉有リキ然ルニ足下ハ政
府ヲ勸メテ此約券ヲ所有スル人ニ對シテ其信
ヲ破リ一夥ノ盜賊ノ貪欲ヲ饜カシムル為メニ
此金ヲ用ヒシメント欲スルハ何事ソヤ
ニ下ノ論中ニ左ノ文有リ曰ク此國人日本人ヲ謂フ
ハ帝ニ其約定ノ信ヲ守ラス又曰ク日本政府ニ
テ行フ所常ニ迫取吝出ノ態有リ又曰ク内閣ハ

寛裕ノ量無クシテ頑固ニ外國人ヲ嫌 総体惡
ムトキノ所為多シ又曰ク此輩ハ左迄ニ損害無
クニモ嘗テ退讓スルノ意無シ又曰ク日本ノ
開國ハ必ス其自國ノ利益ヲ計ルナリト云ヘリ
足下此等ノ論駁ヲ證スルニ足ル程ノ確據ヲ舉
テ逐一看客ニ示サレニヤ否ヤ
足下ハ此上尚オ多クノ退讓ヲ要スル者ナリ又
更ニ多クノ港ヲ開クヲ要スル者ナリ日本ハ既
ニ其自主ノ國政ヲ失フニ至ル程退讓ヲ為セリ
是尚ホ不足ナルカ若シ日本既ニ開キタル諸港

ニ於テ外國ニ從順セル事業ヲ猶多ク廣メント
願ハ、外國人ノ求需ニ隨テ他ノ港ヲモ開クナ
ル可シ然レニ然レニ非ラス開港場ニ於テ日本政府
ハ唯名ノミノ權ヲ有ス其實權ハ悉ク外國官人
ノ手ニ委セリ是故ニ開港場ニ於テハ日本政府
ハ外國人ニモ日本人ニモ嘲笑侮辱ヲ以テ視ラ
ル所ト為レリ政府ノ懼レラレ尊ハル、ハ唯
開化(亞細亞諸國)ノ所謂開化ハ外國トノ交易ヲ
謂フ、及ハサル内地ニ於テハ、ミナリ外國人ハ
此國ニ於テ領事官ノ政治ヲ建立セリ其處置日

本人トノ關係有ル事ニ就テ云フ。若シ外國人
日本人ノ上ニ暴行ヲ為セシ時ハ法律上ニ一併
程ノ罰金ニ屬ス此法律ハ領事官ニ依テ取扱ハ
ル領事官ノ身分才能ハ唯之ヲ命スル人ニ入ミ
知ラレ、者ナリ且陪審官ノ補助無ク且通常法
律ノ學問無キ者ナレハ其領事官ノ管治ヲ以テ
自ラ智巧ノ所為トリト許レロク之ヲ以テ日本
ノ風俗法律ヲ視ルカ故ニ日本政府ニテ此良制
ヲ全國ニ擴メ行フヲ拒ム所以ノ何故タルヲ理
會スレテ得ザレナリ

外國人ハ更ニ多クノ退讓有ラントテ要スル者
ナリ既ニ日本政府ノ受取ル可キ港税ノ多寡
ヲ指令セシナレハ是ニテ十分ナルニ非ラスヤ
亞人或ハ英人等是暴行ニ言及テヤ
此所為ニ依テ日本人ノ較蹙セラル、ハ姑ク置
テ日本ニテ自ラ行フ所ノ事業ヲ見ル可シ英國
及ニ合衆國ノ歲入ノ首タル者ハ酒類ノ釀造
課税ヲ以テ其最トス此國ノ税則ニ輸入ノ
酒類 自國製造ノ酒税ト同様ノ港税ヲ以テセ
ビル若シ日本ヲシテ此島國ニテ釀造スル總テ

ノ酒一ガロン毎ニ十錢ノ税ヲ課シテ其歳
入ヲ百サント欲セシノハ其歸心ヲス日本ニ於
テ一ガロンノ酒モ醸造スル能ハサルニ至
ル可シ外國人ノ製作セシ税則ニテハ酒ハ每百
ニ五ノ價值ニ准シタル税ヲ出シテ輸入スル
ナリ即チ一ガロンニ大約二錢ニ當レリ故ニ
若シ政府一ガロンニ十錢ノ税ヲ課スル時ハ
日本國內ニテノ醸造尽ク廢シテ支那ヨリ酒ヲ
輸入スルニ至ル可シ是レ一ガロンニ就テ僅
カニ錢ノ税ナレハナリ

外國人ハ更ニ多クノ退養有ラントテ要スル者
ナリ倫敦ニ在ル日本人ハ英國政府ニ税ヲ出ス
テ要セラル若シ日本人証券ヲ出シ賣券ヲ出シ
割符ヲ出シ及ヒ保險ノ事務ヲ為サントスル時
ハ必ス印紙ヲ貼セサルヲ得ス若シ醸造等ノ業
ニ從事スレハ其免許ノ入費ヲ出シ又其製出ノ
上ニ酒税ヲ出サ、ルヲ得ス足下ハ日本政府ニ
英國政府ノ日本人ニ課税スルカ如ク日本ニ在
ル英人ノ上ニ課税スルノ推理ヲ養ラントテ欲
スルカ決シテ然ラジ

畢竟日本ハ數百年ノ閉鎖國ノ國柄ナリシカ今
五ヶ所ノ港ヲ開キテ外國ト交易ヲ為セリ外國
人ハ全國ノ開港有ラントヲ望ミ居レリ日本ノ
之ヲ拒ムニニツノ理有リ第一ハ數百年間ノ鎖國
ニテ習性ト為レル偏見有リ之ヲ消滅シテ外國
人ノ内國ヲ通行スルニ安全ナラシムル迄ニハ
許多ノ歲月ヲ經サルヲ得ス若シ今通行ヲ許ル
サル、ナラハ其免許ヲハ特ニ交易ヲ開カント
欲スル者ノミ受クルナル可シ若シ此人ノ中ニ
傷害ヲ被ル者有ル時ハ其損傷ノ償ヒハ必ス政

府ニ向テ請フナル可シ政府ノ既ニ此事ニ懲リ
タルハ其心ニ甘ンセサル所ナリ故ニ政府ニテ
ハ外國人ニモ又自身ニモ危險無カル可キ時ニ
至ル迄待テ居ルヲ以テ上策トセリ第二ニハ全
國中ニ領事官ノ管治ヲ廣ムト去フヲ即チ日
本人其自主ノ権理ヲ總テ遺棄スト去フ義ニナ
ルナリ

右 一千八百七十四年一月七日

於東京ニニツポン

ジヤパン、ヘラルド編輯者

三
一
五
三
一

a